

## IV 各科（課）のあゆみ



## 1 診療科

### (1) 内科

内科としての記載は全体としての人事と教育体制を俯瞰する記載とし、詳細は各専門領域の記事にゆだねるものとします。

#### 【人事】

2021年4月に西成田詔子が有期常勤医から呼吸器内科副医長となり、一條真梨子が腎臓内科副医長として赴任しました。

当院基幹プログラムの専攻医（後期研修医）としては第1期生の雑賀優鳥が当院プログラムを終了して2021年4月から糖尿病内科の有期常勤医として勤務しながら同年7月の第1回内科専門医資格認定試験（日本専門医機構）に合格しました。また同年4月から中垣達、野口遼、佐藤真央の3名が他院研修を終えて復帰、森沙希子は引き続き当院内科で研修を継続し、桑野柚太郎2021年3月31日まで他院研修に出向しました。

慶応大学基幹プログラム2年次の今井悠気、小山薫、殿村駿の3名がそれぞれ1年間、北里大学基幹プログラム3年次の下手公介が当院で4か月間研修を行い、8か月間は川崎市立川崎病院で研修しました。川崎市立川崎病院基幹プログラム3年次の伊藤守が6か月間、永江真也と石野すみれが3か月間当院で研修を行いました。国立病院機構東京医療センター1年次の山下博美は21年4月から22年9月末まで研修を行う予定です。

初期臨床研修では、2021年4月に池 瞳、王野添鋭、廣瀬怜、藤塚帆乃香、藤原修の5名が採用され、2020年4月当院プログラムで採用された三村安有美、福澤紘平、坂上直也、田倉裕介、田尻舞の5名が2年次研修を2021年3月に終了しました。この中で田倉裕介は当院基幹プログラムのacademicコースに入り2022年度は引き続き当院で研修予定です。

#### 【教育研修】

古くから伝統のある呼吸器内科、腎臓内科、リウマチ内科に加え内科各専門分野の充実が図られてきております。

血液内科は専門医2名体制で充実した診療体制を構築してきたところですが、更なる発展のため、川崎病院と一体化した総合的な診療体制作りを目指して組織改革中です。具体的には診療圏に患者数が多く、かつ専門入院設備の乏しい川崎病院に入院診療拠点機能を移し、井田病院は外来診療中心とする変更を行う予定です。

内科全体や各サブスペシャリティでのカンファレンスおよび病棟単位での定期的なカンファレンスや、抄読会、CPC、外部からの医師を招いてのカンファレンスも開催しています。

神経疾患に関しては、聖マリアンナ医科大学から秋山先生、萩原先生、白杵先生に診療指導をいただいております。

当科では2018年度からのスタートにずれ込んだ新専門医制度においても基幹型病院としてのプログラムを整備するとともに慶応義塾大学、東京女子医科大学あるいは市立川崎病院、横浜市立市民病院、けいゆう病院、東京都済生会中央病院、日本鋼管病院、東京医療センターなど魅力的な病院と相互に連携することで優秀な専攻医の確保が可能となりました。

厚生労働省が推進しつつある初期臨床研修医制度の下での研修病院の認定を、当院は1999年度末に得ましたが、研修病院としては他の一般的な内容に加えて次のような特色を持っています。

① 結核病棟があり、他の病院ではなかなか見られない肺結核の症例を豊富に経験できることは、当院における研修の特色の一つであります。

なお、現在は新型コロナウイルス感染症蔓延に伴って、患者転院を行い、中等症患者の受け入れ可能な重点病院として地域医療の中核を担っています。

② 当院はホスピス病棟を持っています。ここでは、避けられない死を前にして患者と家族を一体として診療の対象としています。ホスピスでの研修は counseling mind を以って、診療する良心的な医師を育てる好機であり、各科に共通するターミナルケアの真髄を学ぶことができます。専門医になるとままた忘れがちな重要なポイントを、医師として初期の段階で経験しておくという、極めて意義深い内容を含んでいます。

③ 往診を含む在宅医療を容易に研修することができます。近年慢性疾患の予後が改善し、一線病院では在宅医療や病診連携の需要がますます高まりつつあります。その現場を臨床研修初期の段階で実際に経験しておくことは、研修医が将来どのような専門医になろうとも極めて有用です。この在宅医療・病診連携を取り扱う部門が院内に併設されており、ターミナルケアと併行して研修することができます。

④ 在宅持続携行式腹膜透析(CAPD)を研修できます。高齢者が増加した結果、在宅で 腹膜透析をおこなう方が通院での血液透析よりもQOLにおいて優れていることが理解されてきました。当院では在宅CAPDに力を入れており、その導入、維持管理、合併症治療などの研修を幅広くおこなうことができます。

⑤ エイズについても専門医が在籍しており多くの症例を勉強する機会があります。

⑥ 全員が数か月間は川崎病院をローテートし、3次救急、周産期医療、新生児医療、精神科救急など多様な研修を組み合わせる行うことができます。

(文責 内科系副院長 鈴木 貴博)

#### 内科常勤職員 (2021年4月1日)

氏名	職名	主たる専門分野
伊藤 大輔	副院長・内科部長	消化器内科
鈴木 貴博	副院長	リウマチ内科
好本 達司	循環器内科部長	循環器内科
西尾 和三	診療部長・呼吸器内科部長	呼吸器内科
石黒 浩史	肝臓内科部長	消化器内科・緩和ケア
高松 正視	消化器内科部長	消化器内科
金澤 寧彦	糖尿病内科部長・研修管理委員長	糖尿病・内分泌・代謝
中島 由紀子	感染症内科部長	感染症内科
滝本 千恵	腎臓内科部長	腎臓内科
原田 裕子	循環器内科担当部長・血液内科部長兼務	循環器内科
栗原 夕子	内科担当部長	リウマチ内科
奥 佳代	内科担当部長・健康管理室室長	リウマチ内科

佐藤 恭子	在宅緩和ケアセンター所長	緩和ケア
久保田 敬乃	在宅緩和ケアセンター副所長	緩和ケア
中野 泰	呼吸器内科担当部長	呼吸器内科
西 智弘	腫瘍内科医長	化学療法、緩和ケア
坂東 和香	腎臓内科医長	腎臓内科
小西 宏明	循環器内科医長	循環器内科
外山 高明	血液内科医長	血液内科
丹保 公成	糖尿病内科医長	糖尿病内科
亀山 直史	呼吸器内科医長	呼吸器内科
荒井 亮輔	呼吸器内科副医長	呼吸器内科
長谷川 華子	呼吸器内科副医長	呼吸器内科
西成田 詔子	呼吸器内科副医長	呼吸器内科
高窪 毅	糖尿病内科副医長	糖尿病内科
前田 麻実	腎臓内科副医長	腎臓内科
阿南 隆介	内科副医長	リウマチ内科

#### 常勤医（会計年度任用）および内科専攻医（2021年4月1日）

氏名		主たる専門分野
一條 真梨子	腎臓内科医師	腎臓病
雑賀 優鳥	糖尿病内科医師	糖尿病
中垣 達	内科専攻医	呼吸器
野口 遼	内科専攻医	腎臓
佐藤 真央	内科専攻医	糖尿病
森 沙希子	内科専攻医	糖尿病
桑野 柚太郎	内科専攻医（出向中）	腎臓病
今井 悠気	内科専攻医	膠原病
小山 薫	内科専攻医	呼吸器
殿村 駿	内科専攻医	腎臓病
下出 公介	内科専攻医	膠原病
山下 博美	内科専攻医	

#### （2）呼吸器内科

2021年度は4月より専攻医として中垣医師と小山医師が呼吸器内科チームに加わり、本年度は西尾、中野、亀山、荒井、長谷川、西成田の常勤医師6名と専攻医2名の充実した体制で診療を行うことができました。

2021年度の疾患別入院患者数では、COVID-19そして2020年度同様に肺がん、肺炎、間質性肺炎が上位となりました。肺がんの外科的治療につきましては川崎市立川崎病院呼吸器外科の先生方にご協力頂

きました。外来化学療法にも積極的に取り組んでおり、引き続き各科と協力しながら肺がん診療を行っていきたいと考えております。また当院では、COVID-19 流行の影響により結核病棟への結核患者の受け入れは休止中ですが、近年増加傾向にある肺非結核性抗酸菌症の診断・治療について専門性の高い診療を目指しており、2021 年度も多くの症例を診させて頂きました。気管支鏡検査は水曜、金曜午後に行っており、2021 年度は 87 件と COVID-19 流行の影響を受け流行前より減少しましたが、2020 年度と比較して回復傾向となっています。また、放射線科の協力を得て CT ガイド下肺生検を 20 件実施しました。外来は月曜日から金曜日まで毎日 2 診体制を維持し、専門外来としては引き続き在宅酸素外来を月曜、木曜日午後、月曜午後には禁煙外来を開設しています。

学会活動も活発におこなっており、本年度も日本呼吸器学会、日本内科学会を中心に学会発表を行うとともに、多施設共同研究にも積極的に取り組んでいます。今後も若手医師の教育にも取り組みつつ、地域医療に貢献できるよう努めてまいりたいと考えております。

(文責 呼吸器内科部長 西尾 和三)

### (3) 循環器内科

当院循環器科は循環器科部長 好本、担当部長 原田、医長 小西、心臓血管外科部長 森が循環器科診療を担当しており、外来は毎日循環器科専門外来を開き、また他に月 2 回ペースメーカー外来・不整脈外来・睡眠時無呼吸症候群外来を開き、循環器疾患を有する患者の診察を行っております。

循環器科が担当する非侵襲的検査は 12 誘導心電図・ホルター心電図・心エコー・冠動脈 CT・心筋シンチであります。2021 年度の 12 誘導心電図の件数は 8770 件で、循環器科で全て診断し必要があればコメントを加え他科の診療の一助になっております。心エコーは検査技師の協力のもと、2021 年度は 1974 件に施行しました。また冠動脈 CT を 58 件、薬剤負荷心筋シンチを 62 件、BMIPP を 65 件、ピロリン酸シンチを 4 件、MIBG を 5 件施行し心疾患の非侵襲的評価に威力を発揮しております。

循環器科が担当する侵襲的検査・治療は心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術(PCI)、ペースメーカー植え込み術であります。2021 年度は心臓カテーテル検査を 72 症例に、恒久式ペースメーカー植え込み術を 37 症例に、ペースメーカージェネレーター交換を 9 症例に施行しました。

循環器科が取り扱っている主な疾患は狭心症・心筋梗塞・心不全・弁膜症・心筋症・不整脈・肺塞栓症・高血圧等であり、上記疾患に罹患し、精査加療を要する患者は適宜入院していただいた上で薬物療法にて治療し、また必要があれば上記の侵襲的治療を施行しております。

(文責 循環器科部長 好本 達司)

### (4) 血液疾患センター (血液内科)

#### 1. 診療科概要

2012年に常勤医 1 名で新設された当科は、受診される患者様の増加に対応して、2017年10月より慶應義塾大学血液内科からの派遣を受け、常勤医2名の診療体制となっておりました。井田病院常勤医 2 名が川崎病院で専門外来を開設し、入院治療が必要な方は井田病院をご紹介する体制で、両病院の一体運営を進めて参りましたが、川崎南部地域における血液疾患診療の一層の充実を図るため、川崎病院に無菌室個室 5 床の設置を計画し、2019年度の設備設計、2020年度の工事を経て、2021年 4 月か

ら川崎病院14階南病棟で無菌室の稼働を開始しました。これに伴い、井田病院血液内科常勤医は川崎病院へ異動となり、入院診療業務は主に川崎病院で行う体制となりました。

また、2021年2月より慶應義塾大学輸血・細胞療法センターから派遣を受け、外来診察医の増員が実現しております。

## 2. 人事

2021年4月より定平部長は川崎病院へ移籍し血液内科部長に就任されましたが、週に1回の井田病院外来診療を継続されています。2021年2月より慶應義塾大学輸血・細胞療法センター山崎理絵専任講師が非常勤医師に任用され、2021年度も継続して外来診療に携わっていただいております。外山医師も異動となりましたが非常勤医として定平部長とともに週1回の外来診療を担当されています。

## 3. 診療実績

2021年度の外来患者数は2330名（2020年度：3661名、2019年度：4440名、2018年度：3548名、2017年：2646名、2016年度：2069名、2015年度：1427名）、入院患者数は5名（2020年度：254名、2019年度：269名、2018年度：269名、2017年度：147名、2016年度：115名、2015年度：113名）でした。

（文責 血液内科部長 原田 裕子）

### （5）腫瘍内科

2015年度に化学療法センターが開設された際、腫瘍内科も当院に新設され診療を開始しました。患者さんの生活や生き方を十分にお尋ねし、大切にしたいものを護るための手段のひとつとして、抗がん剤治療の提案・提供をしてきています。

川崎市の皆様にご安心頂けるよう、世界的標準治療を当院でも提供できるよう研鑽に努めています。また、緩和ケア科と一体となった診療を行っており、がんによる症状緩和や精神的サポートなどにも対応していきます。

また、腫瘍内科は化学療法センターの専従として、その管理および急患発生時の初期対応に当たることを業務としております。化学療法センターの環境向上にも努めており、以前であればベッドも1.5回転ほどが限界だったものを、2回転以上可能となるようにしており、より多くの患者さんを受け入れられるように今後も検討を重ねてまいります。

当科での診療対象となる疾患としましては、消化管および肝臓・胆道・膵臓に発生した悪性腫瘍ですが、消化管間葉系腫瘍(GIST)、消化管原発神経内分泌がん(Neuroendocrine cancer:NEC)、原発不明がんなどの抗がん剤診療も行っております。また他科との連携の上で、頭頸部癌や婦人科癌の治療にも携わってきました。

世界的に「早期からの緩和ケア」が進められる中で、当院においても地域における緩和ケアの充実のみならず、治療に対する支持療法や意思決定支援、また通院の負担が大きい場合などの抗がん剤治療継続まで幅広く対応するために、腫瘍内科緩和ケア初診（早期からの緩和ケア外来）の枠を2015年8月に新設し、運営してきました。対象としましては、川崎市内在住のStageⅣ（再発や転移がある）がんの患者さんで、他院において抗がん剤治療継続中に、当院に緩和ケアでの通院もご希望される方になります。

腫瘍内科と緩和ケアが統合された診療体系は世界的に推進すべきと考えられている課題でもあり、当院の成功事例は国内のみならず海外からも注目されてきました。今後も、国内外のエビデンスをふまえつつ、近隣との医療連携に努め、市民へのよりよい診療の提供ができるように取り組んでいく所存です。

2021年診療実績

・化学療法実施延べ件数（化学療法センター）

混注件数：2502件、延べ人数：1958名

（文責 腫瘍内科部長 西 智弘）

## （6）糖尿病内科

2021年度の糖尿病内科の外来および入院業務は、主として金澤、丹保、高窪、雑賀の4名で行いました。また糖尿病内科を志望する内科専攻医として佐藤真央医師も一般内科診療の傍ら糖尿病内科の診療に従事いたしました。従来より御協力いただいている非常勤業務の医師を含めると5名の糖尿病専門医でおよそ1200名余の外来患者の診療にあたり、入院業務にあたっている医師でおよそ年間300名あまりの入院患者の診療を行いました。また当科を希望する内科後期専攻医の受け入れも2020年度に引き続き行いました。

当科の研修診療内容は、昨年度までと同様、教育入院だけでなく、糖尿病を基礎疾患に持つ患者の併存疾患や糖尿病合併症の加療を目的とした入院患者が多く、その診療を継続しております。多岐にわたる疾患を抱える高齢糖尿病患者の治療の中で、併診という形で糖尿病診療のサポートも行っております。上記入院患者においては、糖尿病の診療だけでなく、専門の垣根を超えた総合的診療を求められる患者が多く含まれております。

新規の治療薬、治療機器が次々世に出る昨今、今後も当科の診療をupdateし診療の質を引き続き維持してゆきたいと思っております。少数例ですが内分泌疾患も外来、入院で加療いたしました。学会活動としては臨床内分泌 UPDATE で症例報告を1例行いました。糖尿病だけでなく、内分泌疾患も含めた学会活動を今後も引き続き積極的に行いたいと思っております。

療養指導の面においては、コロナウイルス感染症の影響を受け2020年度は患者向け講演会の開催は行いませんでしたが、今後はWEB媒体を活用した形での患者向け講座の開催などを考えております。外来、入院の中でCDE(糖尿病療養指導士)を中心に、患者層に応じた指導を継続しております。多岐にわたるきめ細かい指導が求められる糖尿病診療の中で、個々の負担を軽減する意味においても、今後療養指導に関わるスタッフをさらに増やし充実できればと考えております。

（文責 糖尿病内科部長 金澤 寧彦）

## （7）腎臓内科

2021年度は6月に坂東和香医師が退職、7月に一條真梨子医師が入職され、腎臓内科常勤医3名で診療業務を行うとともに、初期研修医・後期専攻医の指導にあたりました。後期専攻医としては野口遼医師（D5）と殿村駿医師（D4）が一年間、山下博美医師（D4）が4月から三ヶ月間、腎臓内科の研修を行いました。

腎臓内科としては、高血圧(本態性・二次性)、各種腎臓病、慢性腎臓病の保存期から末期腎不全に至るま

で各ステージに応じた診療を行い、急性血液浄化療法も含め、当科専門領域全般に渡って診療を行いました。外来は月曜から金曜まで毎日の腎臓専門外来に加え、CKD 外来、腹膜透析外来を行う傍ら、コメディカル協力のもと栄養指導、腎代替療法選択指導も行いました。入院診療に関しては主な内訳として、急性腎障害、慢性腎臓病、高血圧症の精査加療等を行い、腎生検 14 例、内シャント作成 13 例、透析導入 28 例を行いました。近隣クリニックからの透析患者様の入院受け入れにも対応し、新型コロナウイルス感染症にまつわる透析患者様も 31 名受け入れました。

学術的には日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会、日本高血圧学会の認定教育施設であり、関連学会や研究会へ参加しながら、医療のスキルアップに努めています。

今後も確かな診療を提供し、地域医療に少しでも貢献していければと存じます。

(文責 腎臓内科部長 滝本 千恵)

## (8) 神経内科

2021 年度も神経内科は2021年度と同じ非常勤医師による対応でした。

月曜日午後は白杵乃理子医師、水曜日午後は秋山久尚医師、金曜日午前は荻原悠太医師の担当で外来診療および入院患者のコンサルテーションに対応してもらいました。

(文責 神経内科部長 鈴木 貴博)

## (9) 感染症内科

当院は国際渡航医学会(International Society of Travel Medicine)の Global Travel Clinic として登録されており、認定医(CTH<sup>®</sup>)が渡航前後の健康相談を行ってまいりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延で旅行者が減少し業務は縮小し昨年は予防接種相談数例にとどまりました。

またエイズ診療拠点病院として、毎年 10 数名の新規患者があります。この中には“いきなりエイズ”として日和見感染症を発症して入院される症例と、昨年に引き続き自国へ帰れなくなったために受診される外国人症例がありました。外国人症例に関しては、日本の制度を利用するために事務手続きにかなりの困難を伴いました。

新型コロナウイルス感染症に関して、当院は人工呼吸器を使わない中等症患者までの受け入れを行う神奈川県重点医療機関となっており、外来診療、入院加療ともに多数の患者の受け入れをしてまいりました。昨年度は第 4、5、6 波と大きな流行があったため病棟は感染症病棟(結核病棟)のみでは足りず、ミンティやヘパフィルターを使用し救急病棟や一般病棟の病床をコロナ患者に対応するため確保しました。対応医師は内科スタッフのみならず、内科専攻医の協力も得て対応してまいりました。

結核に関しては、結核病棟がなくなった後も呼吸器内科とともに外来診療を継続しました。また針刺し事故対応業務(院内外)、抗菌薬適正使用指導等の感染対策室業務も担っております。

## 教育

当院は日本感染症学会の研修施設になっています。

医療従事者に対し、院内感染対策室主催の講習会を利用し(詳細は院内感染対策室の項目参照)感

感染症教育を行っております。昨年は例年と比較して学会での発表の機会が減りましたが、医療従事者の感染症対策のレベルアップのための教育活動にも積極的に関わっております。

(文責 感染症内科部長 中島 由紀子)

## (10) 消化器センター 消化器・肝臓内科

### ① 診療科概要

2021年度も内科の中の消化器内科・肝臓内科部門の一翼として肝疾患を中心に消化器疾患につき診療に当たりました。

消化管病変として胃・十二指腸潰瘍(消化管出血を含む)、急性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸憩室出血、S状結腸軸捻転、腸閉塞や潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患(IBD)など多岐に渡る良性疾患の診断と治療。食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍の診断。

肝疾患として、ウイルス性慢性肝炎(B型、C型)、NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)、自己免疫肝疾患(AIH, PBC, PSCなど)、肝硬変、肝細胞癌(HCC)、胆管細胞癌(CCC)の診断と治療。

胆嚢・膵疾患として胆石・総胆管結石/胆嚢炎・胆管炎、胆道癌、急性膵炎、膵臓癌、膵管内乳頭粘液腺腫(IPMN)などの諸病変の診療を行いました。

### ② 人事異動報告

常勤専属スタッフとして石黒浩史(肝臓内科部長)と高松正視(消化器内科部長)の2名で病棟診療に当たり、更に伊藤大輔(内科系副院長 / 内科部長)を含めた3名体制で外来診療を行いました。

また今年度は消化器内科の後期専攻医として、以下 川崎市立川崎病院、けいゆう病院からローテーション派遣により着任し当科診療に従事しました。

2021年6月から12月まで伊藤守医師(川崎病院)

2022年1月から3月まで永江真也医師、石野すみれ医師(以上 川崎病院)、岩井佑太医師(けいゆう病院)

非常勤では昨年に引き続いて、市川理子医師、下山友医師、井出野奈緒美医師、松下玲子医師が消化器内視鏡を担当しました。

### ③ 診療実績

今年度の肝疾患関連の処置などは、肝生検 17例、肝血管造影 / 肝動脈塞栓術 13例、PEIT(経皮経肝エタノール注入療法) 1例、CART(難治性腹水濃縮還流再静注療法)は 5例でした。肝細胞癌に対する新規の分子標的治療薬導入は 2例でした。

胆道系感染症症例でのPTGBAは今年度も高頻度でした。

消化器内視鏡は消化器センターの内科部門として外科と協力して、上部・下部内視鏡を担当しました。本年度は新型コロナウイルス感染拡大などにより診療実績が余儀なく伸び悩みました。来年度巻き返しに期待したいところです。

#### ④ その他（課題点などを含む）

2022年3月で、石黒医師の定年退職が見込まれるため、常勤スタッフの補充が急務であると考えます。また外来や病棟業務を安定、充実させるため後期専攻医を安定して獲得する体制作りや環境整備も必要と考えます。

（文責 消化器内科部長 高松 正視）

### (11) 消化器センター 外科・消化器外科

#### ① 診療科概要

一般消化器外科として、がんを中心とした悪性消化器疾患、胆のう結石症・大腸ポリープなどの良性消化器疾患、体表・体腔内のヘルニア疾患、末梢血管疾患、肛門痔疾患、等に対する外科手術治療および内視鏡手術治療を主に診療に当たっています。

#### ② 人事異動内容（敬称略）

2021年4月より外科部長として櫻川忠之が赴任しました。

2022年4月に大城雄基が外科専攻研修医としての1年間の活動を終了し慶応義塾大学病院呼吸器外科に帰室いたしました。

2022年4月から亀山友恵が外科専攻研修医として1年間の予定で慶大外科より着任しました。

足立陽子（外科副医長）が2022年4月より独立行政法人国立病院機構東京医療センターに異動となりました。

大森泰（内視鏡センター所長）、掛札敏裕（副院長）、有澤淑人（消化器外科部長）、夏錦言（呼吸器外科部長）、藤村知賢（外科担当部長）、は異動ありませんでした。

大山隆史には、非常勤手術指導医として月2回程度（第2, 4金曜日）指導してもらっていましたが、2022年4月より毎週金曜日の指導になりました。

#### ③ 症例実績

主な疾患の症例実績を表にしました。（2021年度）

臓器	疾患	術式	件数
咽頭および喉頭	喉頭、咽頭癌がん	内視鏡下咽頭喉頭粘膜下層剥離術(ELPS)	24
食道	食道癌	胸・腹腔鏡補助下胸部食道全摘術	7
胃十二指腸	上部消化管穿孔	大網充填術	1
		胃癌	幽門側胃切除
		腹腔鏡補助下幽門側胃切除	7
		胃全摘術	2
		腹腔鏡補助下胃全摘術、噴門側胃切除術	2
		胃 GIST	腹腔鏡下胃局所切除術
	十二指腸癌	内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	2
小腸/大腸	GIST/悪性リンパ腫	根治的切除	2
		虫垂炎	腹腔鏡下虫垂切除
		開腹虫垂切除	3

	イレウス	根治手術（腸切除含む）	3
	直腸、肛門良性疾患	根治固術	8
	腸管ストマ関連	ストマ造設/閉鎖	5/3
	結腸癌	腹腔鏡下結腸癌手術	17
		開腹結腸癌手術	13
	直腸がん	腹腔鏡下直腸前方切除術	8
		開腹直腸前方切除術	1
		腹腔鏡下マイルス手術	1
		開腹マイルス手術	1
		ハルトマン手術	2
		経肛門切除	1
	早期大腸がん	EMR/ESD	35/13
肝胆膵	胆石/胆嚢ポリープ	腹腔鏡下胆嚢摘出術	44
		開腹胆摘	2
	肝臓癌 等	肝切除術	3
	胆嚢癌	拡大胆嚢摘出術	3
	膵癌、胆管癌	膵頭十二指腸切除術	5
		膵体尾部切除術	3
末梢血管等	CPD	CPD カテ挿入/抜去	1/1
	ASO	血管内治療	4
	下肢静脈瘤	ストリッピング+硬化療法	3
	CV ポート	CV ポート挿入術	7
ヘルニア疾患	腹壁癒痕ヘルニア/ 閉鎖孔ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア根治術	0
		ヘルニア根治術（直達法）	10
	鼠径ヘルニア	腹腔鏡下ヘルニア根治術	18
		ヘルニア根治術（直達法）	33

#### ④ 反省と展望／課題

Covid19 流行に伴う外来患者数減少や外科病棟の一次閉鎖などの影響で外科手術/内視鏡治療ともに少ない状況でした。前年度より約 1 割程度の回復はありましたが、平時と比較しては少ない状況が続いています。

夜間・休日の外科オンコール体制および内視鏡オンコール体制は引き続き年間を通じて継続しました。

働き方改革での病棟完全チーム制／複数主治医制の導入などは、今後の課題です。

（文責 外科部長 櫻川 忠之）

## (12) プレストセンター（乳腺外科）

### 【理念・方針】

乳癌はいまだに増加の一途を辿り、今では日本人女性の9人に1人が乳癌に罹患します。

井田病院は2012年5月より乳腺外科外来を独立させ、より専門的かつ最新の医療を提供できるよう環境を整備致しました。そして、2018年4月からプレストセンターに名称を変更し、慶應義塾大学病院とも連携し常に先進の治療を提供していきます。

診断においては川崎市には設置の少ないステレオガイド下マンモトームやトモシンセシス(乳房断層マンモグラフィ検査)を有し、治療においてもアイソトープを併用したセンチネルリンパ節生検やティッシュエキスパンダーを用いた乳房再建術にも対応しております。若年性乳癌の増加に伴い、妊孕性温存や遺伝性乳癌にも対応できるよう近隣施設とも連携しております。

当院では、平均して3泊4日で乳癌手術を行っております。これは全国的にも短い入院期間で、お忙しい世代のニーズに応えられるよう配慮しております。短い入院期間にも関わらず、退院後に合併症による再入院は10年間で1%未満という成績を自負しております。

また、がん診療連携拠点病院である当院としましては、地域クリニックとの『がん診療連携』にも重点を置いております。近隣に乳腺専門施設が少ない立地を生かし、より地域に根付いた乳腺診療を行っていきたくと考えております。

### 【年間症例数】（2019年4月 - 2022年3月）

乳癌症例数		2019年	2020年	2021年
手術	総件数	140件	126件	74件
	乳房部分切除術	109件	99件	58件
	乳房全摘術	30件	26件	15件
	乳房再建術	4件	4件	6件
治療	放射線治療	65件	60件	32件
	化学療法	932件/569人	1,107件/695人	879件/558人
外来	外来受診総数	4,731人	4,476人	4,777人
	紹介患者数	321人	213人	284人

### 【対象疾患】

良性疾患	症状	乳房痛、乳汁分泌、炎症 など
	可能性のある病名	乳腺症、乳腺炎、乳頭異常分泌症 など
	検査法	マンモグラフィ、超音波、MRI、細胞診、組織診 など
腫瘤性病変	症状	しこりを自覚、健診で指摘、皮膚のひきつれ など
	可能性のある病名	乳腺症、良性腫瘤、葉状腫瘍、乳癌 など
	検査法	マンモグラフィ、超音波、MRI、細胞診、組織診 など

石灰化病変	症状	マンモグラフィにて石灰化を指摘
	可能性のある病名	乳腺症、良性腫瘍、葉状腫瘍、早期乳癌 など
	検査法	マンモグラフィ、超音波、MRI、細胞診、組織診 など
乳頭部異常	症状	乳頭部のただれ、出血 など
	可能性のある病名	皮膚疾患、パジェット病、乳癌 など
	検査法	マンモグラフィ、超音波、MRI、細胞診、組織診 など

#### 【主な検査・機器など】

遺伝子検査	遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)を調べるための BRCA 検査や、抗癌剤の適応を調べるコンパニオン診断が可能です。
3D マンモグラフィ (トモシンセシス)	通常のマンモグラフィ検査に加え、乳房の断層撮影が可能な最新器機を導入しております。
乳房造影ゲイミック MRI 検査	マンモグラフィや超音波では診断が困難な場合、造影剤を用いた MRI 検査にて乳腺の詳細な情報を得ることができます。 (喘息の方は造影剤が使用できません)
エコーガイド下吸引針生検	超音波にて異常を認めた場合、超音波ガイド下にマンモトームという機器を使って針生検をします。 通常の針生検と比べ、より確実に組織を採取できます。
マンモグラフィガイド下吸引針生検	マンモグラフィにて異常石灰化を指摘された場合、マンモグラフィで確認しながらマンモトームという機器を使って針生検をします。

#### 【当院で可能な手術】

乳腺腫瘍切除術	局所麻酔下にて、良性腫瘍を日帰り手術で摘出します。
乳腺腺葉区域切除術	乳頭異常分泌症において、乳汁分泌を来す異常乳管を同定し、その乳管を含む腺葉のみ切除する術式です。
センチネルリンパ節生検	乳癌の手術において、腋の下のリンパ節に転移があるかどうかを調べる検査です。当院では色素法と RI 法の併用法で行いますので、より確実な結果を得ることができます。
乳房温存手術 (温存術)	乳癌の手術において、腫瘍の大きさや位置によっては乳腺を部分的に切除することで、乳頭および乳房の形状を温存することができます。 (多少は乳房が変形することがあります)
胸筋温存乳房切除術 (全摘術)	乳癌の手術において、乳頭・乳輪および乳腺を全て切除する術式です。
乳頭温存皮下乳腺全摘術	乳癌の手術において、乳頭・乳輪は温存し乳腺のみを全て切除する術式です。
組織拡張器による乳房形成術	乳房切除術後に、エキパンダーといわれる組織拡張器を同時挿入します。後日、シリコンバッグや自家組織との入れ替え術を行います。

## 【医師紹介】

氏名	認定資格	所属学会
嶋田 恭輔	日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 検診乳房超音波読影認定医 乳房再建用エキスパンダー実施施設責任医	日本乳癌学会 日本外科学会 日本癌治療学会 日本人類遺伝学会 日本乳房ワコプラスチックサージャリ学会 日本臨床外科学会
佐藤 知美	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医 検診マンモグラフィ読影認定医 検診乳房超音波読影認定医	日本乳癌学会 日本外科学会 日本癌治療学会 日本臨床外科学会
山脇 幸子 (非常勤)	日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医 検診マンモグラフィ読影認定医	日本乳癌学会 日本外科学会 日本癌治療学会 日本臨床外科学会
久保内 光一 (非常勤)	日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医・指導医 日本乳癌検診学会評議員 検診マンモグラフィ読影認定医 検診乳房超音波読影認定医 日本医師会認定産業医	日本乳癌学会 日本外科学会 日本乳癌検診学会 日本臨床外科学会

(文責 乳腺外科医長 嶋田 恭輔)

### (13) 呼吸器外科

呼吸器外科は、専門常勤医が不在であり、川崎病院所属の医師により週2回（火曜日午前、木曜日午前）の外来診療を行なっています。2021年度の外来は、昨年度に引き続き、火曜日は奥井、木曜日は澤藤が担当しています。

外来で可能な対応は井田病院で行っていますが、手術など治療に入院を要する場合には川崎病院に紹介しています。今後も、川崎病院と連携して診療を行っていきたいと考えています。

(文責 呼吸器外科部長 夏 錦言)

### (14) 整形外科

2021年度は、整形外科常勤医5人の体制で診療を行ってまいりました。2021年度の人事異動は、9月末に保坂医師・前島医師が異動し、10月から若林医師・今本医師が赴任しました。

年間の手術件数は309件で、昨年度に比べて8件の増加でした。内訳は表のとおりでした。1日平均